



日本のまんなか  
水と緑といで湯の街渋川市

## 令和6年8月第2回市長定例記者会見

- ・日時 令和6年8月9日(金)  
午後1時
- ・場所 市役所本庁舎記者会見室

- 1 渋川市にぎわい創出補助金を活用した「辰巳町夏祭り」を開催します（資料1）
- 2 渋川市女性団体連絡協議会「渋川市地域づくり講演会」を開催します（資料2）
- 3 「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体の群馬パース大学福祉専門学校で心のバリアフリーセミナー（D E T研修）を実施します（資料3）
- 4 令和6年度第1回市政モニターアンケートの実施結果をお知らせします（資料4）

### ○次回開催予定

日時：令和6年8月20日(火) 午後2時30分～  
場所：本庁舎記者会見室

市長の主な週間日程

月 日	時 間	件 名	場 所	所 管
8月9日(金)	9:00 13:00 16:30	庁議 市長定例記者会見 群馬県未来構想フォーラムNext Stage	市役所本庁舎 市役所本庁舎 吉岡町文化センター	政策戦略課 広報室 政策戦略課
8月10日(土)	17:30	令和6年度古巻地区納涼祭	古巻中学校校庭	古巻公民館
8月11日(日)	17:00 17:00	りんごの里自治会山車祭 よあき夏まつり	りんごの里住民センター 豊秋公民館野外活動広場	市民協働推進課 豊秋公民館
8月12日(月)	14:00	祖母島自治会健康教室・渋川えみの会ウォーキングクラブ 「七夕会」	祖母島自治会館	介護保険課
8月13日(火)				
8月14日(水)				
8月15日(木)				
8月16日(金)				
8月17日(土)				
8月18日(日)	17:00	金井本町自治会地蔵尊祭り	金井本町地蔵前	市民協働推進課
8月19日(月)	9:30 15:00	唐澤剣也選手への応援旗の贈呈 監査委員から渋川市決算意見書等の提出	太田市運動公園 市役所本庁舎	広報室 監査委員事務局
8月20日(火)	9:00 13:30 14:30	庁議 渋川市安全で安心なまちづくり協議会 市長定例記者会見	市役所本庁舎 市役所第二庁舎 市役所本庁舎	政策戦略課 危機管理室 広報室

## 資料1

# 渋川市にぎわい創出イベント補助金を活用した 「辰巳町夏祭り」を開催します

渋川駅前通りを歩行者天国にした「辰巳町夏祭り」を8月11日(日)に開催します。会場では、近隣5町の山車5台が集結し、山車のもみ合戦やお囃子の披露などでまちなかのにぎわい創出と「渋川山車まつり」の魅力をPRします。

## 1 概 要

渋川市にぎわい創出イベント補助金を活用して、辰巳町を中心とした近隣5町が「辰巳町夏祭り」を開催します。

これは、隔年で開催される「渋川山車まつり」が、今年は未開催年であることから、まちなかのにぎわい創出とともに渋川山車まつりの魅力をPRし、渋川山車まつりの開催年に多くの来場者が訪れてくれることを目的として開催するものです。

渋川駅前通りに5台の山車が集結し、もみ合戦やお囃子を披露するほか、来場者が飛び入り参加できる催しを実施します。

## 2 日 時 令和6年8月11日(日) 午後2時～7時

※雨天決行

※熱中症アラートが出た場合、中止もしくは内容が変更となる場合  
があります

## 3 場 所 渋川駅前通り

(渋川駅北信号から辰巳町信号までの間)

## 4 内 容

渋川駅前通りを歩行者天国会場にして、近隣5町の山車（辰巳町・南町・新町・熊野町・寄居町）を並べ、山車のもみ合戦やお囃子の披露を行います。

また、来場者が飛び入り参加できる綱引き大会やブルーシートに水を張った水遊びを行います。

当日は、渋川駅前通り沿いの飲食店が、開店時間を早めて日中から営業します。

## 5 スケジュール

- |                |        |
|----------------|--------|
| ・午後2時～         | 開会     |
| ・午後2時20分～3時20分 | 水遊び    |
| ・午後3時30分～4時10分 | 綱引き大会  |
| ・午後4時25分～4時50分 | 山車もみ合戦 |
| ・午後6時～         | お囃子披露  |
| ・午後7時          | 閉会     |

## 6 主 催 辰巳町 青巳会

## 7 記者会見出席者

辰巳町夏祭り 青巳会 代表 高津 宏之 (たかつ ひろゆき) さん  
事務局 町田 亮 (まちだ りょう) さん

### ■問い合わせ先

産業観光部 部長 金井 裕昭 (内線4899)  
担当: 産業政策課 (電話0279-22-2596)  
課長 山田 量俊 (内線4890)  
商工・産業振興係長 堀田 章恵 (内線4895)

## 資料2

# 渋川市女性団体連絡協議会「渋川市地域づくり講演会」を開催します

8月24日(土)に渋川市民会館で「渋川市地域づくり講演会」を開催します。

この講演会は、渋川市女性団体連絡協議会が活動の一環として運営を行うものです。今回は、伊勢久美子渋川市副市長が、防災対策に女性の視点を取り入れることの重要性について講演します。

## 1 概 要

「渋川市地域づくり講演会」は、市民が安心して暮らせる地域づくりや、地域の発展を図るため女性の社会参画などをテーマとして実施している講演会です。

令和6年度は、頻発している自然災害に対する備えに女性の視点を取り入れることや、男女共同参画の必要性について、伊勢久美子渋川市副市長が講演を行います。

2 日 時 令和6年8月24日(土) 午後2時～3時45分終了予定

※開場は午後1時30分

3 場 所 渋川市民会館 小ホール(渋川市渋川2795)

4 演 題 女性の視点を取り入れた防災対策と男女共同参画の必要性について

5 参 加 料 無料

6 参加方法 申込は不要です。当日直接会場へお越しください。

7 主 催 渋川市教育委員会

8 主 管 渋川市女性団体連絡協議会

## 9 記者会見出席者

渋川市女性団体連絡協議会 会長 茂木 道代(もぎ みちよ)氏

## 参考

### 1 渋川市女性団体連絡協議会について

女性の社会参画意識の向上と、地域の発展に寄与することを目的とした団体で、市内で活躍する9つの女性団体及び個人会員で組織されています。

#### 【構成団体】

- (1) 渋川連合女性会
- (2) 渋川市渋川赤十字奉仕団
- (3) 渋川市女性防火クラブ
- (4) 渋川市伊香保赤十字奉仕団
- (5) 更生保護女性会伊香保支部
- (6) 渋川市伊香保婦人会
- (7) 伊香保地区交通安全婦人部
- (8) おのがみレディースクラブ
- (9) 更生保護女性会小野上支部

### 2 地域づくり講演会開催状況

- (1) 令和元年度 令和元年11月9日「女流落語家による挑戦」  
(講師：落語家 林家つる子 氏)
- (2) 令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止
- (3) 令和3年度 新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止
- (4) 令和4年度 令和4年8月27日「心を奏でるRala♡laMUSIC」  
(講師：バイオリニスト・しぶかわ応援大使 心奏（らら）氏)
- (5) 令和5年度 令和5年9月27日「SDGs～いまわたしたちにできること」  
(講師：駒沢大学総長 永井政之 氏)

#### ■問い合わせ先

教育部 部長 斎藤 章吉（内線4930）

担当：生涯学習課（電話0279-22-2500）

課長 照井 智子（内線4950）

生涯学習係長 村尾 洋明（内線4954）

# 渋川市地域づくり講演会

## 講演テーマ

### 「女性の視点を取り入れた防災対策と 男女共同参画の必要性について」

■日時 令和6年8月24日（土）

午後2時～3時45分（午後1時30分開場）

■会場 渋川市民会館小ホール

■入場料 無料（どなたでもご参加いただけます）



## 講師のご案内



いせ くみこ  
伊勢 久美子 氏  
(渋川市副市長)

本年の元日、能登半島で大きな地震が発生しました。また、地球温暖化による気候変動の影響を受け、風水害などの発生も頻発になり災害も激甚化しています。いつどこで発生するか分からない災害に備えるため、市でも様々な防災対策を行っていますが、それらに女性の視点を取り入れていくことの重要性についてお話ししたいと思います。あわせて、防災面に限らず、政策立案や意思決定の場に、なぜ男女共同参画実現の視点が必要なのかについても、お伝えできればと思います。

#### ◆プロフィール◆

平成5年渋川市役所入庁  
秘書課長や総合戦略部長・政策統括監を歴任  
令和5年10月5日付で渋川市副市長に就任  
渋川市初の女性副市長となる

■主催 渋川市教育委員会 ■主管 渋川市女性団体連絡協議会  
■問い合わせ 渋川市教育部生涯学習課(TEL0279-22-2500)



## 資料3

# 「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体の群馬パース大学福祉専門学校で心のバリアフリーセミナー（D E T研修）を実施します

社会の中にある障壁（バリア）をなくし、全ての人が暮らしやすい共生社会の実現に向け、バリアを捉える視点とバリアを解決していくための行動の形成に向けたD E T（障害平等）研修を「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体である群馬パース大学福祉専門学校で実施します。

### 1 概 要

渋川市は、社会の中にある障害、差別、偏見をなくし、全ての人が暮らしやすい共生社会の実現に向け、障壁（バリア）を捉える視点と行動の形成に向けたD E T（障害平等）研修を令和2年度から実施しています。これまで、職員をはじめとして、渋川市内の中学生のほか、「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体として共生社会の推進に取り組む渋川市内の企業・団体等、多くの人たちに参加していただき、「心のバリアフリー」に向けた取り組みの輪を広げています。

今年4月からは、障害者差別解消法の改正により事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化され、障害や社会の中にあるバリアについて、当事者との対話を通してみんなで一緒に解決策を検討していくことの重要性が高まっています。

今回は、群馬パース大学福祉専門学校の介護学科の2年生を対象に「インクルージョン」、「多文化共生」をテーマとして、なにが差別か、なぜ差別が作られたのか、どう解決するのかを当事者との対話を通して考え、多文化共生社会における合理的配慮のための行動に結びつけ、相手に寄り添ったコミュニケーションの実践に役立てます。群馬パース大学福祉専門学校では、令和2年度に教職員を対象として実施していますが、学生を対象としては初めての実施となります。

### 2 D E T（障害平等）研修とは

障害者自身がファシリテーターを務め、参加者との対話、視覚教材やグループワークを通じて、社会の中にある様々な障害を見抜く力を養うとともに、「障害は個人の問題」という意識から「障害は周りの環境を皆で変えていくことにより解決していく問題」という意識への変革及び解決に向けた行動の形成を図るワークショップ型の研修です。

### 3 「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体とは

渋川市は、共生社会の実現に向けた取組の加速を図るため、「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言の趣旨に賛同する団体を募集しています。令和6年7月末現在で、81の団体が渋川市とともに宣言を行っています。

全ての人が社会の一員として共生社会を築きあげる役割を担い、世代や分野を超えた地域の多様な主体と市が「共生社会実現のまち 渋川市」の推進に向けて共同宣言を行うことにより、共生社会実現に向けた企画・実施の促進に働きかけます。

- 4 開催日時 令和6年8月23日(金) 午後0時40分～3時50分
- 5 開催場所 群馬パース大学福祉専門学校 101教室  
(渋川市渋川1338-4)
- 6 対象 群馬パース大学福祉専門学校介護学科の2年生(33人)
- 7 講師 D E T群馬(「共生社会実現のまち 渋川市」推進共同宣言団体)
- 8 会見出席者 D E T群馬代表 飯島 邦敏(いいじま くにとし) 氏
- 9 今後の開催予定  
(1) 実施日時 令和6年9月6日(金) 午後2時～3時50分  
(2) 実施団体 子持中学校  
※10月以降の予定は改めてお知らせします

## 参考

### 1 D E T研修の開催実績

- ・令和2年度=7回：参加者193人
- ・令和3年度=8回：参加者351人
- ・令和4年度=10回：参加者551人
- ・令和5年度=10回：参加者317人

### 2 心のバリアフリーセミナーのその他の取り組み

共生社会の実現に向け、オンライン版「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を市内小学校で開催しています。

オンライン版「あすチャレ！ジュニアアカデミー」は、パラアスリートを中心とした講師から、パラスポーツを通して、障害とは何かを自分の視点で考えることを目的とした授業です。共生社会の実現のために何ができるのか、講師とのリアルタイムな対話を交えながら、楽しく理解を深めることを目指します。

#### ■問い合わせ先

総合戦略部 部長 鴻田 吉史(内線2410)  
担当：政策戦略課(電話0279-25-8419)  
課長 小野 篤史(内線2420)  
未来戦略係長 齋藤 大輔(内線2423)

企業向け社内研修をご対応します！

世界38ヶ国で行政・企業・

学校などに実施されている研修です。

少人数でもお気軽にご相談ください。

DET群馬

Disability Equality Training

# 「障害者差別解消法・合理的配慮を推進するために」

## 障害平等研修

DISABILITY EQUALITY TRAINING

DET



DETは内閣官房が実施したオリンピック・パラリンピック基本方針推進調査「ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査」試行プロジェクトに採択されている研修です！



障害者雇用・職場環境改善・ユニバーサルデザイン商品開発・SDGsなど、ご要望に合わせたプログラム内容にて実施可能です！

### POINT 1

"教える"ではなくグループワークにより  
参加者と一緒に対話しながら学ぶ発見型学習！

### POINT 2

差別や排除、参加の制約などの障害という  
課題を見抜く視点を獲得することで、  
インクルーシブな職場環境に変えるための具体的  
な解決行動を形成する研修！

インクルーシブ・  
バリアフリー、共生社会…  
ナニをしたらいいんだろう？  
その答えを見つけて  
自主的に行動できる  
人材の育成に。

お気軽にお問合せください！

DET群馬事務局

〒372-0825 群馬県伊勢崎市戸谷塚町290-2 TEL: 090-3208-0153

Mail: detgunma@yahoo.co.jp ホームページ: <https://detgunma.wixsite.com/gunma>





## 資料4

# 令和6年度第1回市政モニター アンケートの 実施結果をお知らせします

渋川市は、令和5年度に導入した「市政モニター」制度を活用し、44人の市政モニターを対象として、今年度1回目のアンケートを実施しました。40人から回答をいただいたアンケートの集計結果をお知らせします。

このアンケート結果は、各種施策の推進や計画立案などの参考資料として効果的に活用するとともに、市ホームページで公開します。

## 1 概 要

渋川市は、市の政策や計画策定などに対する市民意見を聴取し、各種施策の推進や計画立案などの参考資料として効果的に活用するとともに、市政への市民参加の実現と開かれた市政を推進するため、令和5年度に「渋川市市政モニター」設置しました。今年度は、市内関係団体からの推薦34人と公募による10人の計44人を市政モニターに登録しています。

今回、令和6年度第1回市政モニター アンケートとして、「渋川市とハワイ郡との交流について」、「市の農林行政の推進について」をテーマにしてアンケートを実施しました。このアンケートの結果を報告します。

## 2 アンケート実施期間 令和6年6月18日(火)～7月2日(火)

## 3 アンケート実施対象

令和6年度渋川市市政モニター44人(推薦による登録・34人、公募による登録・10人)

## 4 回答状況 回答者：40人 (20～80歳代) ※回答率：90.9%

## 5 アンケート集計結果

### (1) 渋川市とハワイ郡との交流について

#### ①結果概要

- ・渋川市とハワイ郡が姉妹都市・友好都市提携交流があること及び伊香保ハワイアンフェスティバルに行ったことがある人が約8割を占め、市民にとってハワイ郡との交流が身近なものであるという結果でした

#### ②主な意見

- ・伊香保以外でも、年齢を問わず誰でも気軽に参加しやすい場所でイベント等を開催する
- ・市内の店舗や公共施設など街全体での雰囲気作りをする

#### ③今後の対応

今回いただいた意見は、来年のプロジェクトに反映させていきます。

### (2) 市の農林行政の推進について

#### ①結果概要

- ・農業に対して、食料などを生産する重要な産業であるとほぼ全てのモニターが考えていました。また、全ての世代で、農地を残していく意思が多い結果でした。

#### ②主な意見

- ・生産者の労に報いるとともに、後継者育成やコストダウン等に結びつく市政が必要だと思う
- ・従事者の減少と高齢化に対してどのような取組をしているのか?直接関係ない市民は、分かりにくいと思う

#### ③今後の対応

今回いただいた意見は、渋川市農林業振興計画改訂版の参考意見とします。

※詳細は別紙のとおりです

## 6 その他

庁議での協議後、今回のアンケート結果を、事業担当課を含む庁内の全所属に共有し、各施策の今後の展開に反映できるよう検討していきます。

## 参考

### 1 市政モニター登録者情報

- (1) 居住地 渋川地区（17人）、伊香保地区（7人）、小野上地区（2人）、子持地区（7人）、赤城地区（5人）、北橘地区（6人）  
(2) 年齢 20歳代（5人）、30歳代（9人）、40歳代（6人）、50歳代（3人）、60歳代（9人）、70歳代（9人）、80歳代（3人）  
(3) 職業 会社役員、会社員、団体職員、パート、主婦、建設業、神主、旅館業、農家、キャリアカウンセラー、インストラクター、相談支援専門員、土地家屋調査士、施設指導員、自営業、自動車整備・販売業、金属製建具工事業、大学生、無職  
(4) 性別（推薦による登録者のみ） 男性=22人、女性=12人  
(5) 任期 令和6年6月1日（土）～令和7年3月31日（月）

### 2 昨年度のアンケートの回答状況

- 第1回 実施期間 令和5年8月28日（月）～9月8日（金）  
テーマ  
回答状況 回答者38人・回答率82.6%
- 第2回 実施期間 令和5年10月20日（金）～11月2日（木）  
テーマ  
回答状況 回答者25人・回答率54.3%
- 第3回 実施期間 令和5年12月22日（金）～令和6年1月12日（金）  
テーマ  
回答状況 回答者36人・回答率78.3%
- 第4回 実施期間 令和6年1月29日（月）～2月13日（火）  
テーマ  
回答状況 回答者35人・回答率76.1%

### 3 昨年度のモニターアンケートの事業への主な反映状況

- (1) 「渋Pay」について、事業内容の再周知が必要との意見を受け、対応した内容に紙面を修正して広報を発行。その他、事業者向けのアンケートも実施  
(2) JR八木原駅周辺整備について、現地でのアンケート結果などに加え、市政モニターのアンケート結果も反映させた内容で事業を検討

#### ■問い合わせ先

総合戦略部 部長 鴻田 吉史（内線2410）  
担当：広報室（電話0279-22-2182）  
室長 熊迫 徳三（内線2419）  
広報広聴係長 武井 香代（内線2414）

## 令和6年度 第1回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和6年度 第1回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

**【調査対象】** 令和6年度市政モニター44人（公募10人・団体推薦34人）

＜モニターの要件＞

- ・市内に住所を有する18歳以上の人
- ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
- ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人

**【実施期間】** 令和6年6月18日（火）～7月2日（火）

**【実施方法】** アンケートフォームによる（一部、書面（郵送）調査）

**【実施内容】** 1. 渋川市とハワイ郡との交流について（問1～問6）  
2. 市の農林行政の推進について（問7～問16）

**【回答状況】** アンケート調査回答者：40人（20歳代～80歳代）  
回答率：90.9%

### 参考

＜アンケート回答者の情報＞

- (1) 居住地 渋川地区（16人）、伊香保地区（6人）、小野上地区（2人）、  
子持地区（6人）、赤城地区（5人）、北橘地区（5人）  
(2) 年齢 20歳代（4人）、30歳代（8人）、40歳代（5人）、  
50歳代（3人）、60歳代（8人）、70歳代（9人）  
80歳代（3人）

渋川市  
(広報室)

令和6年度 第1回  
渋川市市政モニターアンケート結果

1. 渋川市とハワイ郡との交流について(伊香保ハワイアンフェスティバル)

市は、姉妹都市・友好都市提携により、アメリカ合衆国ハワイ郡などの海外の都市と、教育・産業・観光などの分野で相互の交流を図り、多文化共生社会を推進しています。

ハワイ郡との交流は、旧伊香保町においてハワイ王国公使別邸を町の史跡に指定したこと（昭和60年10月1日）を契機に始まりました。平成9年1月には、ハワイ郡と姉妹都市協定を締結し、現在も継続して交流を図っています。なお、公使別邸は敷地内にあるガイダンス施設と共に一般公開しています。

ハワイ郡との交流のひとつとして、例年8月上旬に伊香保地区で行われる『伊香保ハワイアンフェスティバル』は、今年で26回目の開催となり7年ぶりにフラコンペティションを開催します。市は、このイベントを目的に国内外から訪れる大勢の人たちを歓迎し、渋川市全体の活性化につなげるため、市全体でハワイアンムードの高揚を図りたいと考えています。

問1 渋川市とハワイ郡とは、姉妹都市・友好都市提携交流があることを知つていましたか。

- ①知っていた（31人・79.5%）  
②知らなかった（8人・20.5%）  
※未回答（1人）

※どの年代でも「①知っていた」の回答が多いが、全体の約2割が「②知らなかった」と回答しており、今後も周知が必要と言える

()は人数	年齢別回答状況			単位:人
	①	②	未回答	
20歳代(4)	3	1		4
30歳代(8)	5	3		8
40歳代(5)	5			5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	6	2	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	31	8	1	

問2 姉妹都市・友好都市提携交流の一部として、ハワイアンフェスティバルが開催されることを知っていましたか。

- ①知っていた（29人・74.4%）
- ②知らなかった（10人・25.6%）
- ※未回答（1人）

※問1の回答状況とほぼ変化はないが、20歳代の2人が「②知らなかった」の回答に変化。姉妹都市・友好都市提携交流の一部としてイベントを実施していることの周知も必要であると言える

年齢別回答状況				単位:人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	1	3		4
30歳代(8)	5	3		8
40歳代(5)	5			5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	6	2	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	29	10	1	

問3 姉妹都市・友好都市提携交流の一部として、ハワイ王国公使別邸が公開されていることを知っていましたか。

- ①知っていた（23人・59.0%）
- ②知らなかった（16人・41.0%）
- ※未回答（1人）

※回答が「①知っていた」を「②知らなかった」を上回る年代もある。ハワイアンフェスティバル（問2）と比較しても、ハワイ王国公使別邸の公開が姉妹都市・友好都市提携交流の一部であることの認知度は低い

年齢別回答状況				単位:人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	2	2		4
30歳代(8)	4	4		8
40歳代(5)	3	2		5
50歳代(3)	2	1		3
60歳代(8)	7	1		8
70歳代(9)	3	5	1	9
80歳代(3)	2	1		3
合計(40)	23	16	1	

問4 伊香保ハワイアンフェスティバルについて、該当するものを選んでください。

- ①イベント会場に行ったことがある（行ってみたいと思う）（32人・82.1%）
- ②イベント会場に行きたいと思わない（7人・17.9%）
- ※未回答（1人）

※年齢別の回答から、ハワイアンフェスティバルに行ったことがなく、行きたいと思わない人は、50歳代以下の一部であることがわかる。20歳代は半数が、50歳代は半数以上が「②イベント会場に行きたい」と思わないと回答している

年齢別回答状況				単位:人
()は人数	①	②	未回答	合計
20歳代(4)	2	2		4
30歳代(8)	6	2		8
40歳代(5)	4	1		5
50歳代(3)	1	2		3
60歳代(8)	8			8
70歳代(9)	8		1	9
80歳代(3)	3			3
合計(40)	32	7	1	

問5 「問4」で回答した内容に合わせて下記に回答してください。

■①イベント会場に行ったことがある（行ってみたいと思う）

と回答した方（32人）

- ・イベントに「行った感想」または「行ってみたいと思う理由」を教えてください。
- ・伊香保ハワイアンフェスティバルがどんなイベントであれば繰り返し行ってみたいと思いますか。

**＜簡易抜粋＞**

- ・ハワイに行ったような雰囲気がよかったです
- ・本場の人の踊りは、さすが素晴らしい、また、見たいと思う
- ・姉妹都市提携交流に相応しいイベントだと思う
- ・子ども達が楽しめるものがあれば行ってみたい
- ・フラだけでなく一般の方が楽しめる内容があるとリピート率も上がるのでは
- ・マンネリ化を改善して継続していく時期だと思う
- ・来年度がどんなものになるか期待できる仕掛け
- ・コンテンツの少なさが目立ち、イベントの滞在時間が短い
- ・ハワイのことを知る写真展とか野外上映でビデオを見られるといいかも

②イベント会場に行きたくないと思わないと回答した方（7人）

- ・イベントに行きたくない理由を教えてください。

**＜簡易抜粋＞**

- ・移住して1年の人間から見て、白い砂浜と青い海のハワイと、雄大な山々と斜面に建物がひしめく伊香保は真逆のイメージがあります
- ・フラダンスがある他にどんな事があるかわからないため、興味を惹かれない
- ・素人の方がフラダンスを披露しているイメージで特に魅力を感じない

問6 市全体でハワイアンフェスティバルを盛り上げるため、市民のハワイアンムードを高めるアイデアを自由に記入してください。

＜簡易抜粋＞

- ・伊香保以外でも、年齢を問わず誰でも気軽に参加しやすい場所でイベント等を開催する
- ・本場のフラダンサーヤウクレレミュージシャンの招聘
- ・市内の店舗や公共施設など町全体での雰囲気作り
- ・JR 渋川駅ではSLみなかみ号運転日におもてなしとしてホームでハワイアンミュージック、フラダンスの披露があった。今後もJRと協力して開催するのが望ましい
- ・道の駅や食の駅などでもハワイと渋川の交流と関係性がわかる商品があると観光客にも周知されそう。
- ・小、中学校などで総合的な学習の時間などハワイと渋川の関係を知る授業を取り入れる
- ・入場者にアロハシャツを無料提供
- ・ハワイの現地人（特に日本の方）にどれだけ認知されているか調べてもよいと思う
- ・例年天候が荒れるので参加者が通るルートは屋根がほしい
- ・ハワイをPRする動画がない
- ・できる限り「ハワイで提供されているもの」に近い内容の食を提供することで、よりお祭りとしての一体感を出す。（EX：かき氷▲→アイスシェーブ○）
- ・市内も活用することで更にコンテンツ増を狙えないのか？
- ・伊香保でも、少し下に行くと、ハワイアンフェスティバルの感じはなくなってしまいます
- ・ハワイの旅行券があたる抽選会イベントの開催。参加資格は市内各所をスタンプラリーで回るなどする
- ・小学校でフラダンス教室または鑑賞
- ・市役所などでアロハシャツ等の販売
- ・市役所のわかりやすいところに関連した展示があると把握はしやすい

## 2. 市の農林行政の推進について

農林業を取り巻く環境は、農林業従事者の高齢化や農地・林地の荒廃など、極めて厳しい状況にあり、多くの農林業従事者が将来に強い不安を抱えています。

このような状況の中、渋川市は、農林産物の生産・消費の拡大や他産業との連携による農林業の振興を図るため、市の農林業の将来像を設定し、その実現に向けた施策を計画的に推進することを目的に「渋川市農林業振興計画」を策定しています。

この計画の計画期間が令和6年度末で満了となることから、令和7年度以降の計画を策定するため、市内消費者の皆さんのが農業の現状に対する意見や要望の確認を進めています。

### 問7 農業に対するイメージで当てはまるものを全て選んでください。

- ①食料などを生産する重要な産業である (37人・94.9%)
- ②農作物を育てて、販売するというやりがいがある (19人・48.7%)
- ③豊かな自然環境の中で仕事ができる (17人・43.6%)
- ④組織に縛られず、自分の考えでできる (10人・25.6%)
- ⑤経営の仕方によっては儲かる (19人・48.7%)
- ⑥重労働である (26人・66.7%)
- ⑦天候に左右され、収入が不安定である (24人・61.5%)
- ⑧苦労が多い割には儲からない (8人・20.5%)
- ⑨生き物（作物や家畜）相手で生活が拘束される (25人・64.1%)
- ⑩特がない (1人・2.6%)
- ⑪その他 (1人・2.6%)
- ※未回答 (1人)

### ＜その他意見＞

- ・ITとDXの力が発揮できる業種である

○は人数	年齢別回答状況											単位:人
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
20歳代(4)	4	1	2		2	4	3	1	3			20
30歳代(8)	7	2	1	2	4	5	3	1	5	1	1	32
40歳代(5)	5	3	2		2	5	3	2	4			26
50歳代(3)	3	1		1	1	2	3		2			13
60歳代(8)	8	6	6	3	3	6	7	2	5			46
70歳代(9)	7	4	5	4	5	4	5	2	6		1	43
80歳代(3)	3	2	1		2							8
合計(40)	37	19	17	10	19	26	24	8	25	1	1	1

※「①食料などを生産する重要な産業である」は全ての世代で最多選択の値（同数を含む）となっている。また、「⑥重労働である」・「⑦天候に左右され、収入が不安定である」・「⑨生き物（作物や家畜）相手で生活が拘束される」は、複数の世代で回答数上位3位以内（同数を含む）になっている

問8 あなたが農業や農村に期待するものは何ですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①新鮮で安全な農畜産物の供給をする（34人・87.2%）
- ②雨水の貯水などにより、洪水の防止や土砂の崩壊を防ぐ（8人・20.5%）
- ③雨水の浸透により地下水を豊かにする（7人・17.9%）
- ④自然環境や田園景観の保全・形成をする（24人・61.5%）
- ⑤農作業体験や自然体験など、教育・レクリエーションの場を提供する（19人・48.7%）
- ⑥豊作祈願などに由来する古くからの伝統文化や祭りなどの行事を継承する（6人・15.4%）
- ⑦特がない（1人・2.6%）
- ⑧その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

**＜その他意見＞**

- ・世界に認知される輸入いらずの渋川の強み

()は人数	年齢別回答状況								単位：人	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	未回答	合計
20歳代(4)	2	1	1	4	1	1				10
30歳代(8)	7	1	1	3	2		1	1		16
40歳代(5)	5	2	1	2	2	1				13
50歳代(3)	3		1	1	3					8
60歳代(8)	8	2	1	5	5	2				23
70歳代(9)	8	1	1	6	5				1	22
80歳代(3)	1	1	1	3	1	2				9
合計(40)	34	8	7	24	19	6	1	1	1	

\*全体の回答で最多となった「①新鮮で安全な農畜産物の供給をする」は、20～70歳代の回答で、回答数上位2位以内（同数を含む）になっているが、80歳代では3番目に多い回答となっている。全体の回答が2番目に多かった「④自然環境や田園景観の保全・形成をする」は、50歳代を除く全ての世代の回答で、回答数上位2位以内（同数を含む）となっており、50歳代では3番目に多い回答になっている

問9 あなたは今ある渋川市の農地がどのようにになって欲しいと思いますか。

当てはまるものを全て選んでください。

- ①今ある農地はできるだけ残してほしい（15人・38.4%）
  - ②一生懸命農業をやっている農家の農地は残してほしい（30人・76.9%）
  - ③生産性・作業効率の低い農地は減っても仕方ない（10人・25.6%）
  - ④工場・宅地などへの転用を考えるべき（5人・12.8%）
  - ⑤わからない（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

年齢別回答状況						単位:人	
()は人数	①	②	③	④	⑤	未回答	合計
20歳代(4)	2	4	1				7
30歳代(8)	2	5	1			1	9
40歳代(5)	2	2	3				7
50歳代(3)		2		2			4
60歳代(8)	4	7	2	2			15
70歳代(9)	5	7	3	1		1	17
80歳代(3)		3					3
合計(40)	15	30	10	5	1	1	

\*「①今ある農地はできるだけ残してほしい」・「②一生懸命農業をやっている農家の農地は残してほしい」は農地を残すことへの意見であり、「③生産性・作業効率の低い農地は減っても仕方ない」・「④工場・宅地などへの転用を考えるべき」は農地を減らすことへの意見である。これを踏まえ、①・②の回答は、40・50歳代を除く全ての世代で回答数上位2位以内の回答になっており、多くの世代で、農地を残すことへの意見が多いことがわかる

問10 あなたは渋川産農畜産物についてどのような考え方持っていますか。

- ①ぜひ食べたい（23人・59.0%）
  - ②できれば食べたい（16人・41.0%）
  - ③できれば食べたくない（0人）
  - ④食べたいとは思わない（0人）
- ※未回答（1人）

※20~40・60・70歳代で  
「②できれば食べたい」よ  
り「①ぜひ食べたい」の回  
答が多い（同数含む）。ま  
た、回答した全ての人が、  
渋川産農畜産物を食べたい  
と考えている

年齢別回答状況						単位:人
()は人数	①	②	③	④	未回答	合計
20歳代(4)	3	1				4
30歳代(8)	5	3				8
40歳代(5)	3	2				5
50歳代(3)	1	2				3
60歳代(8)	6	2				8
70歳代(9)	4	4			1	9
80歳代(3)	1	2				3
合計(40)	23	16	0	0	1	

問11 渋川産農畜産物を手に入れやすくするためにどのような取り組みをすればよいと思いますか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

①スーパーやショッピングセンターへの地場産コーナーの設置（充実）

(27人・69.2%)

②共同直売所を増やす（15人・38.5%）

③地域での朝市、夕市などの定期開催（14人・35.9%）

④商店街の八百屋や小売店での販売を強める（5人・12.8%）

⑤インターネット、広告、直売所マップなどの情報提供（16人・41.0%）

⑥農業に関するイベントの開催（11人・28.2%）

⑦農家個人の直売所を増やす（2人・5.1%）

⑧観光農園を増やす（4人・10.3%）

⑨その他（4人・10.3%）

※未回答（1人）

#### ＜その他意見＞

- ・SNSプロモーションを外部に託す
- ・学校給食への積極的利用
- ・移動販売車（高齢者の買い物問題も同時に解決しちゃおうという考え方）
- ・農家と消費者それぞれがWINWINになるく仕組みを作る。いくら地元産で良いものでも高いと買いたくない。これまでの販売ルートではおそらく難しいので見直しから

年齢別回答状況

単位：人

(1)は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	未回答	合計
20歳代(4)	3	2	1		2	1	1	1	1		12
30歳代(8)	4	1	3		6	2		1	1		18
40歳代(5)	3	1	1	2	1	2	1				11
50歳代(3)	2	2	2			1			1		8
60歳代(8)	5	5	4	1	4	3					22
70歳代(9)	8	3	2	1	2	2		2	1	1	22
80歳代(3)	2	1	1	1	1						6
合計(40)	27	15	14	5	16	11	2	4	4	1	

※「①スーパーやショッピングセンターへの地場産コーナーの設置（充実）」について、全世代で上位2以内の回答数（同数を含む）であることから、年代に関わらず、スーパーなど普段の買い物の中で渋川産農畜産物を手に入れられる環境が必要だと考えていることがわかる。「③地域での朝市、夕市などの定期開催」は、全体の回答が4番目（14人）であるが、全世代から選択されており、かつ、40歳代を除き全ての世代の回答で上位3位以内（同数を含む）となっていることから、多くの世代から注目されているようである

問12 渋川産農畜産物の販売を促進するためにどのような取り組みが必要だと  
思いますか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

①市の農畜産物とわかるような地場産表示（ロゴマークなど）をする

（13人・33.3%）

②イベントを行い、PR活動を実施する（13人・33.3%）

③首都圏にアンテナショップを設置し、新たな販路を開拓する（3人・7.7%）

④農業と食品関連企業が連携し、農畜産物を加工して商品化する（17人・43.6%）

⑤飲食店・ホテル・旅館・学校給食などで、渋川市産の食材を使用する

（25人・64.1%）

⑥渋川市産の農畜産物をブランド化する（13人・33.3%）

⑦インターネットを活用した産地直送の仕組みを充実させる（17人・43.6%）

⑧特ない（0人）

⑨その他（1人・2.6%）

※未回答（1人）

#### ＜その他意見＞

- 前提がおいしいものでないと促進にならない。市として自信のあるものかそ  
うでないかで販路は変わる。

○は人数	年齢別回答状況									単位：人
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
20歳代(4)	3			1	3	3	1			11
30歳代(8)	2	2	2	2	4	1	4		1	18
40歳代(5)	2	1		4	3	2	1			13
50歳代(3)	2	1		1	1	3	1			9
60歳代(8)	1	5		4	5	4	4			23
70歳代(9)	3	2	1	3	7		5		1	22
80歳代(3)		2		2	2		1			7
合計(40)	13	13	3	17	25	13	17	0	1	1

※全体の回答数上位2位以内（同数を含む）となる「④農業と食品関連企業が連携し、農畜産物を加工して商品化する」・「⑤飲食店・ホテル・旅館・学校給食などで、渋川市産の食材を使用する」・「⑦インターネットを活用した産地直送の仕組みを充実させる」については、全世代から得票しており、年代に関わらず、重要だと考えられているようである。そのうち④と⑦は、回答数が同数であるものの、共に20歳代の回答を除いた場合、④はその他全ての世代において回答数上位3位以内（同数を含む）の回答になっている

問13 あなたは農山村の資源保全に市民も参加すべきだと思いますか。

- ①強く思う (11人・28.2%)
  - ②やや思う (21人・53.8%)
  - ③あまり思わない (4人・10.3%)
  - ④思わない (0人)
  - ⑤わからない (3人・7.7%)
- ※未回答 (1人)

○は人数	年齢別回答状況					合計
	①	②	③	④	⑤	
20歳代(4)	2	1	1			4
30歳代(8)		6			2	8
40歳代(5)	1	3	1			5
50歳代(3)	1		1		1	3
60歳代(8)	1	7				8
70歳代(9)	5	2	1		1	9
80歳代(3)	1	2				3
合計(40)	11	21	4	0	3	1

※全体の回答として、回答者の8割以上の方が、少なからず農山村の資源保全に市民も参加すべきと考えている。特に、60・80歳代では、全ての人が、「①強く思う」または「②やや思う」と回答している

問14 あなたは農業体験についてどのようにお考えですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①温泉地の近くや豊かな自然の中で生活したい（9人・23.1%）
  - ②摘み取り農園や観光農園で気軽に農業を体験したい（14人・35.9%）
  - ③市民農園で自由に農作物を作ってみたい（7人・17.9%）
  - ④農家の指導を受けながら農作業をしてみたい（18人・46.2%）
  - ⑤農業を趣味と実益を兼ねて「年金+農業所得」の生活をしてみたい（8人・20.5%）
  - ⑥ボランティアとして農家の作業を手伝ってみたい（3人・7.7%）
  - ⑦農業の研修を受けて自分流の農業に取り組みたい（6人・15.4%）
  - ⑧農村の様々な体験をしてみたい（4人・10.3%）
  - ⑨農家民泊などで農家に泊まって生活体験などをしたい（7人・17.9%）
  - ⑩将来、就農して永住したい（1人・2.6%）
  - ⑪農業や農村にはあまり関心が無い（2人・5.1%）
  - ⑫その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

**＜その他意見＞**

- ・ロボットを使った資源保全と拡大、肉体酷使のイメージからの離脱

()は人数	年齢別回答状況												合計
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
20歳代(4)	1	2	2	3	1	1			1		1		12
30歳代(8)	1	4	2	1			1	1	3		1	1	15
40歳代(5)	2	1		3	3		1		1	1			12
50歳代(3)		1		2	1		1						5
60歳代(8)	3	2	2	4	1	1	2	1	1				17
70歳代(9)		3	1	5	1	1	1	1	1			1	15
80歳代(3)	2	1			1			1					5
合計(40)	9	14	7	18	8	3	6	4	7	1	2	1	1

\* 「②摘み取り農園や観光農園で気軽に農業を体験したい」は、全体の回答が2番目（14人）であるが、全世代から選択されており、かつ、40歳代を除き全ての世代の回答で上位3位以内（同数を含む）となっていることから、多くの世代から注目されていることがわかる

問15 あなたが、渋川市の農業政策に期待することは何ですか。該当するものを選んでください（最大3つ）。

- ①農業後継者や新規農業者といった担い手の育成（27人・69.2%）
- ②大型直売所の整備や、地元の農産物の产地表示などの推進（3人・7.7%）
- ③より多くの安心で安全な農産物の生産の拡大（8人・20.5%）
- ④地域の特性を活かした農業の推進（14人・35.9%）
- ⑤有機農業や資源を有効に活用した環境にやさしい農業の推進（7人・17.9%）
- ⑥農業収入の向上など農業経営の支援（15人・38.5%）
- ⑦学校給食での地元農産物の使用拡大（11人・28.2%）
- ⑧「農」にふれあう機会（農業に関するイベント・講習会等）を開催し、農業や農村の役割について理解を深めるよう、学習会や交流会の機会を増やす（5人・12.8%）
- ⑨農業体験を充実させる（1人・2.6%）
- ⑩農業者や商工業者が連携し、新たな商品やサービスを開発する（9人・23.1%）
- ⑪農村の自然環境・景観を守り育てる（5人・12.8%）
- ⑫特がない（1人・2.6%）
- ⑬その他（1人・2.6%）
- ※未回答（1人）

**<その他意見>**

- ・既存農業者の負担軽減につながるITとDXの力を駆使したロボット導入。そして、渋川市としての実益と実績の拡大。

(1)は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	未回答	合計
20歳代(4)	2	1	1	2		2	1	1			2				12
30歳代(8)	5		1		1	4	2	1		3	1	1	1		20
40歳代(5)	3			2	1	2	1		1	2	1				13
50歳代(3)	2		1	1		2	1			1					8
60歳代(8)	6	2	3	4		2	3	1		1	1				23
70歳代(9)	7		1	3	3	2	3	2		1				1	23
80歳代(3)	2		1	2	2	1				1					9
合計(40)	27	3	8	14	7	15	11	5	1	9	5	1	1	1	1

※「①農業後継者や新規農業者といった担い手の育成」・「⑥農業収入の向上など農業経営の支援」は全体の回答数も多く、全ての世代から選択されている。また、「③より多くの安心で安全な農産物の生産の拡大」・「④地域の特性を活かした農業の推進」・「⑦学校給食での地元農産物の使用拡大」・「⑩農業者や商工業者が連携し、新たな商品やサービスを開発する」は、回答数に差があるものの、多くの世代から選択されており、①・⑥と同様に、市が行う農業政策として、幅広い世代から期待されているようである

問16 市の農林業の振興を図るためのアイデアや、市の農林業について日頃感じていることがあれば自由に記入してください。

＜簡易抜粋＞

- ・生産者の勞に報いるとともに、後継者育成やコストダウン等に結びつく市政が必要だと思います
- ・景観等を保全してくださっている兼業農家さんへ一定の補助があると好ましいように素人ながら思いました
- ・従事者の減少と高齢化に対してどのような取組をしているのか？直接関係ない市民は、わかりにくいと思う
- ・農地で工作がされていない土地が荒れ放題となっている、地域からのクレームもあるが地主さんに依頼しても、地主さんも高齢化してどうにもならない土地が多くあります、こうした土地を活用できる対策を実施すべきだと思います。非耕作地の税金を高くするという話も聞きますが農地としての土地売買や貸土地等のしやすさの検討をすることも必要ではないでしょうか
- ・そもそも市がどのように農林業とか関わっているのかを知りません
- ・地元の野菜は、おいしいと思います。規格外野菜を沢山かえるお店があるといいと思います
- ・農業イベントは少ない気がするので拡充してほしい
- ・直売所だけでなく、ネット販売を充実させる
- ・農家の後継者がいないでの高齢化により耕作放棄地が増え雑草が埋め尽くし、でもそれが気になってしまふその土地の地主さんはにはできない。誰かにやってほしいと思っている人がいっぱいいると思う
- ・農地として使った方がいい土地も太陽光発電やそれもできない人はほって置くしかない。行政指導で何とかならないものなのでしょうか
- ・農業については、ほぼ同じ状況にある昭和村や川場村があれだけ元気にやっているのに、どうして渋川市は具体策がだせないのでですか。問題は地域の頭脳とも言える市役所にあると思っています
- ・渋川は農林業においても日本のまんなかであるとPRできる力が必要だと思います
- ・農畜産物のブランド化と農産物直売所の販売だけでなく、道の駅などの多目的施設を活用した販売。（川場の田園プラザやこもち道の駅など）
- ・林業については間伐材の活用や植林体験ボランティアの募集（足尾の植林ボランティアの活動を参考にする）
- ・小学生に郊外学習の一環で田植え体験